

上映スケジュール CALENDRIER

5.21 (土)	14:30	カドリーユ <i>Quadrille</i> (95分)
	16:30	メロ <i>Mélo</i> (112分) 上映後、大寺眞輔氏によるアフタートークあり suivi d'une conférence de Shinsuke Odera
6.25 (土)	14:30	サンライズ <i>L'Aurore</i> (95分)
	16:30	飛行士の妻 <i>La Femme de l'aviateur</i> (107分) 上映後、三浦哲哉氏によるアフタートークあり suivi d'une conférence de Tetsuya Miura

入場料金 一般：1200円/アンスティチュ・フランセ会員：600円/東京藝術大学の学生：無料(同日2作品セットでのご購入は、一般：1800円)
チケット販売 前売券は、アンスティチュ・フランセ横浜の受付にて販売。当日券は、会場(東京藝術大学馬車道校舎)にて1本目の開演30分前より販売。
■ 開場は各回20分前より。1本目と2本目のチケットを同時にご購入いただけます。
■ 整理番号順でのご入場・全席自由席・各回入替制。
■ プログラムはやむを得ない事情により変更されることがございますが、予めご了承下さい。

Tarifs d'entrée aux projections ; Adhérents 600 yens, Non-adhérents 1200 yens, 1800 yens pour les non-adhérents pour les 2 films de la journée. Gratuit pour les étudiants de l'Université des Beaux-Arts de Tokyo. Les billets sont mis en vente en avance à l'Institut français du Japon - Yokohama. Les billets sur place seront mis en vente 30 min avant la 1ère séance à l'Université des Beaux-Arts de Tokyo (Campus Bashamichi). Ouverture des portes 20 min avant la séance.

会場 東京藝術大学 馬車道校舎 231-0005 神奈川県横浜市中区本町4-44

[特集上映] 恋愛のディスクール 映画と愛をめぐる断章

主催 アンスティチュ・フランセ日本 | 助成 アンスティチュ・フランセ パリ本部、CNC(フランス国立映画センター)、ユニフランス | 映画プログラム オフィシャル・パートナー 笹川日仏財団、TV5 MONDE | フィルム提供 ゴーモン、日活株式会社 | 後援 横浜市文化観光局

FRAGMENTS D'UN DISCOURS AMOUREUX le cinéma et/est l'amour

Organisé par l'Institut français du Japon ; Avec le soutien de l'Institut français, CNC, Unifrance, la Ville de Yokohama ; En partenariat avec Fondation Franco Japonaise Sasakawa et TV5 MONDE ; Merci à Gaumont et Nikkatsu

Ligne Minatomirai BASHAMICHI 馬車道 馬車道駅出口5 Sortie 5 県立歴史博物館	LAWSON 東京芸術大学馬車道校舎 Univ.Geidai Campus Bashamichi 地下鉄開内駅出口9 Sortie 9 du Métro Kannai	開内大通り Av. Kannai 国道133号 Route133
Royal Host アンスティチュ・フランセ横浜 L'INSTITUT	地下鉄開内駅出口7 Sortie 7 du Métro Kannai	国道16号 Route16 横浜市役所 Mairie de Yokohama
← 荻木町 En direction de Sakuragi-cho	JR 開内駅北口 Sortie Nord	JR 開内 KANNAI En direction de Ishikawa-cho

お問い合わせ アンスティチュ・フランセ横浜 (旧・横浜日仏学院)

231-0015 横浜市中区尾上町5-76 明治屋尾上町ビル7階 ☎045-201-1514 ✉yokohama@institutfrancais.jp 🌐www.institutfrancais.jp/yokohama

横 浜
MOIS DE LA
FRANCE
月 間
A YOKOHAMA
2016

2016
6.11(土)
7.14(木)

音楽、美食、
映画、写真展など
大人も子供も楽しめる
フランス文化の
発典!

「週末フレンチ・シネマ」上映会 WEEK-END CINÉMA

6月18日(土) / 6月19日(日) <入場無料>
横浜美術館で、夏の週末におすすめのフランス映画2作品をご紹介します。

■ 6月18日(土) 18:00~
『アメリ』 *Le Fabuleux Destin d'Amélie Poulain*
監督:ジャン=ピエール・ジュネ
出演:オドレイ・トトゥ、マチュー・カソヴィッツ、
ヨランド・モロー、ジャメル・ドゥブーズ

■ 6月19日(日) 18:00~
『夏時間の庭』 *L'Heure d'été*
監督:オリヴィエ・アサイヤス
出演:ジュリエット・ピノシュ、シャルル・ベルリング、
ジェレミー・レニエ、エディット・スコブ

会場:横浜美術館レクチャーホール 横浜西区みなとみらい3-4-1
お問い合わせ:アンスティチュ・フランセ横浜(045-201-1514)
主催:アンスティチュ・フランセ日本 共催:横浜市
*詳細はホームページ(www.institutfrancais.jp/yokohama)をご参照ください。

INSTITUT
FRANÇAIS

アンスティチュ・フランセ横浜
JAPON - YOKOHAMA

サッシャ・ギトリ「カドリーユ」

YOKOHAMA

[横浜シネクラブ CINÉ-CLUB À YOKOHAMA]

FRAGMENTS
D'UN DISCOURS
AMOUREUX

le cinéma et/est l'amour

1^{er} CHAPITRE | samedi 21 mai 2016

Sacha GUITRY × Alain RESNAIS
« l'amour de la langue »

2^{ème} CHAPITRE | samedi 25 juin 2016

Eric ROHMER × F. W. MURNAU
« le sentiment amoureux et le vide »

à l'Université des Beaux-Arts de Tokyo (Campus Bashamichi)

Invités spéciaux Shinsuke Odera / Tetsuya Miura

[特集上映] 恋愛のディスクール 映画と愛をめぐる断章

第1章 2016.5.21(土) サッシャ・ギトリ×アラン・レネ 《言葉による愛の駆け引き》

第2章 2016.6.25(土) エリック・ロメール×F.W.ムルナウ 《恋心と空虚》

[会場] 東京藝術大学馬車道校舎 [特別ゲスト] 大寺眞輔/三浦哲哉

[特集上映] 恋愛のディスクール 映画と愛をめぐる断章

映画が身体、運動を記録することは自明ですが、感情、情緒、エロティズムを記録することは同じくらい明白といえるでしょうか？ もしそうだとすれば、映画はいかに「愛」を可能としてきたのでしょうか？ サッシャ・ギトリ、アラン・レネ、エリック・ロメール、そしてF.W.ムルナウの導きとともに、さまざまな観点から愛についての映画史を辿る特集上映を開催します。

FRAGMENTS D'UN DISCOURS AMOUREUX
le cinéma et/est l'amour

第1章 1^{er} chapitre

2016. **5.21** (土) samedi 21 mai 2016

サッシャ・ギトリ × アラン・レネ 《言葉による愛の駆け引き》
Sacha GUITRY × Alain RESNAIS « *l'amour de la langue* »

*16:30の回上映後、映画批評家・大寺真輔氏によるアフタートークを予定しています。

フランス劇壇の異才、サッシャ・ギトリが巧みな会話劇によって4人の男女の愛の駆け引きを描いた作品『カドリユ』に、ギトリを敬愛してやまなかったアラン・レネによる究極の恋愛悲劇『メロ』をご紹介します。

愛を語る言葉と密やかな心理的駆け引きに満ちた遊戯的で楽しいチェンバー・フィルム(室内映画)は、従来フランス映画が最も得意としてきたものだ。しかし今日では、ペレイマンやロメール、ウディ・アレンからの影響を経てアレックス・ロス・ペリーのような期待のアメリカ・インディペンデント映画作家、そして『エクス・マキナ』のようなSF作品にまでその確かな広がりを感じることができる。ヒラヒラと転調し続ける言葉と感情の繊細なメロディーに心奪われつつ、この美しくも儂い、映画史のもう一つの華麗な系譜に魅惑されよう！——大寺真輔(映画批評家)

[14:30-]

カドリユ *Quadrille*

[フランス/1937年/95分/デジタル/モノクロ/日本語字幕]

監督:サッシャ・ギトリ 出演:サッシャ・ギトリ、ギャビー・モルレー、ジャクリン・ドリュバック



女優のポレットは、日刊紙「パリ・ソワール」編集長フィリップの恋人。そこに今をときめく人気若手俳優カールが登場し、ポレットの魅力に心奪われてしまう。ポレットは、自分を女優と知らないカールに、名前を偽り、身元を隠している。そんな時、カールはフィリップのインタビューを受けることになり、フィリップはインタビューのお礼に、ポレットが出演する舞台のチケットをカールに贈り、知らずしてふたりの再会をお膳立てしてしまう……。

「サッシャ・ギトリと自分を比較することなどもちろんできないが、彼の作品は全部観ている。そこに彼が出演していたことがとても重要なんだ！スクリーンに映る彼は深い喜びを与えてくれて、劇場で初めて『とらんぶ譚』を観た時は、多くの演出家がそうであったように、嬉しさで飛び跳ねてしまった。自分の作品の中に彼の影響が垣間見えたとしたらとても光栄なことだ……」——アラン・レネ
「サッシャ・ギトリの戯曲、映画はあらゆる意味において“jeu(ゲーム、戯れ、演技)”についての作品だ。」——ジャック・リヴェット



[16:30-]

メロ *Mélo*

[フランス/1986年/112分/デジタル/カラー/英語字幕]

監督:アラン・レネ 出演:サビーヌ・アゼマ、ピエール・アルディティ、アンドレ・デュソリエ、ファニー・アルダン



音楽院時代の親友ピエールとマルセルが再会する。ピエールの妻、ロメヌは世界的なヴァイオリニストとして活躍するマルセルに魅了され、2人はいつしか愛し合う仲に。演奏旅行の長い旅に出かけなくてはならなくなったマルセルは、ロメヌに帰ってくるまでにピエールと別れるように迫り、彼女に誓わせて旅に出る。苦しんだロメヌはピエールに毒を盛ろうとするが……。原作はアンリ・ベルンシュタインの戯曲。死をも超える愛のテーマに、洗練された会話と情緒豊かな音楽、アール・デコ最盛期のファッションやインテリアなど見所満載。

「私の関心は、スタイルのある音楽だった。ベルンシュタインの言葉の響きやリズム、彼の強迫的テーマや極度なノイローゼにかかった人物たちだ。ベルンシュタインは観客に能動的になるのを求めている。」——アラン・レネ



ゲストプロフィール 大寺真輔 Shinsuke Odera

映画批評家、早稲田大学講師、アンスティチュ・フランセ横浜シネクラブ講師、新文芸坐シネマテーク講師、IndieTokyo主催。「カイエ・デュ・シネマ・ジャポン」でデビュー後、「文学界」「BRUTUS」「TITLe」「美術の窓」「映画芸術」「TVナビ」「fader」など、さまざまな媒体で批評を執筆。「キネマ旬報」では、評論家発のコーナーを連載。オリヴィエ・アサイヤス、ブノワ・ジャコー、ジャンクロード・プリソーなど、映画監督へのインタビューも多数。著書に「現代映画講義」(青土社)、共著書に「黒沢清の映画術」(新潮社)、「21世紀の人間と経済」(中央大学出版部)、「中央大学人文研叢書」など。

第2章 2^{ème} chapitre

2016. **6.25** (土) samedi 25 juin 2016

エリック・ロメール × F.W.ムルナウ 《恋心と空虚》
Eric ROHMER × F. W. MURNAU « *le sentiment amoureux et le vide* »

*16:30の回上映後、映画批評家・三浦哲哉氏によるアフタートークを予定しています。

フランスを代表する映画監督、エリック・ロメールの《喜劇と格言劇》シリーズの開幕を飾る作品『飛行士の妻』に併せて、ロメールが「最も偉大な映画作家」として多大な影響を受けたムルナウ監督の傑作『サンライズ』を上映します。

恋愛映画史上の最高傑作『サンライズ』と、ロメールの恋愛喜劇を結ぶものとは。ヴァカンス(空虚)、都市、浮気、幻影、そして真心……。なぜ人は身近な相手愛するために紆余曲折を経なければならぬのか。永遠に新しく、いまま観客の心の琴線に触れてやまない「映画の恋愛表現」の核心を探る。——三浦哲哉(映画批評家)

[14:30-]

サンライズ *L'Aurore*

[アメリカ/1927年/95分/DVD/モノクロ/サイレント/日本語字幕]

監督:F.W.ムルナウ 出演:ジョージ・オブライエン、ジャンネット・ゲイナー、マーガレット・リヴィングストン



田舎に住む純朴な夫は都会から来た女の虜になり、男は彼女に妻を殺すようそのかされ、小舟から妻を突き落とそうとするが思いとどまった。だが、怯えた妻は男から逃げ、路面電車で飛び乗る。夫はなんとか追いつき、車中で仲直りしたふたりは、初めての大会で心弾む一夜を過ごし故郷に戻る。だが、小舟で田舎に帰る途中、嵐のため小舟が転覆し、男は助かったが妻は行方不明になってしまう。悲しみに暮れる男の目の前に、再びあの女が現れた……。

「世界一美しい映画」——フランソワ・トリュフォー
「ムルナウは『サンライズ』を撮る前に、まるごと一つの世界を構築しておいたのであり、撮られた映画はその記録にすぎない」——エリック・ロメール



[16:30-]

飛行士の妻 *La Femme de l'aviateur*

[フランス/1980年/107分/35ミリ/カラー/日本語字幕]

監督:エリック・ロメール 出演:フィリップ・マルロー、マリー・リヴィエール、アンヌ・ロール・ムーリー



© 1981 LES FILMS DU LOSANGE

法学部の学生で夜間は郵便局で働くフランスワは不器用で冴えない青年。仕事帰りの早朝、年上の元恋人・アンヌを訪ねると、彼女が愛人であるパイロットの男と一緒にいるところを目撃してしまう。アンヌと喧嘩したフランスワは偶然そのパイロットが他の女といところを見つけ、尾行することにした。そこへ、同じバスに同乗していたリゼエンヌ、リュシーが彼の尾行に気づいて、さらにその後ろをついてくる……。ヌーヴェルバーグの指導的立場にあったエリック・ロメールが、80年代に向けて放った新しい連作シリーズ《喜劇と格言劇》の第1作目。街頭での16mm撮影というドキュメンタリー的手法を取り入れ、現場の生の音、生の光を記録することによって生まれる緊張感と、尾行、覗き見、思い違い、偶然の出会いなどヒッチコック的な要素をかけたサスペンスが全篇にみぎらる。

「ロメールの作品は、なによりも登場人物によるシナリオの作成を物語っている。登場人物はそのシナリオの中に世界を折り畳んでみせる。シナリオと現実の対峙、それがまさにすべてのロメール作品で問われ続けている問題だ」——ジャン＝マルク・ランヌ



ゲストプロフィール 三浦哲哉 Tetsuya Miura

映画批評家。「キネマ旬報」、「ユリイカ」等に映画批評を寄稿。著書に『映画とは何か——フランス映画思想史』、『サスペンス映画史』、訳書に『ジム・ジャームッシュ インタビューズ——映画監督ジム・ジャームッシュの歴史』(東邦出版)。共著に『ひびく映画——ポスト・カストロフ時代の想像力』(フィルムアート社)。福島県内外での映画上映プロジェクトImage.Fukushima代表。